

石川町資源調査調書

通し番号	37	整理番号	3	-	011	作成	平成19年2月
名 称	ニチレンシュウ タホウザン チョウフクイン 日蓮宗 多宝山 長福院					項 目	寺院
管 理	住 所	石川町大字沢井字大池下84					
	連 絡 先	TEL 0247-26-6862					
	管理者及び所有者	現住職 山口憲祥（第四世）					
概 要	本寺 妙閑寺 白河市金屋町116 本山 弘法寺 千葉縣市川市真間4-9-1 総本山 久遠寺 山梨県身延町字身延35617 本尊 南無久遠実成本師釈迦牟尼佛 開山 亮生院日乗上人 武州多摩柿生村上麻生 中興開山 智光院日耀上人 本県白河町妙閑寺十四世 開山年 享保16年12月7日 移転開山年 明治32年11月 開基 鈴木藤右衛門夫妻 中興開基 増子友右衛門 本県石川郡沢井村竹柄 宗祖 日蓮立正大師 當寺は明治18年頃より当村の増子友右工門等が法華經の信者の依り所として現在地に自宅の家屋を移転し、同信者の会合所と定め白河妙閑寺の日耀上人を招請し、布教所とし後日秀上人常住し、明治25年には教会所となる。明治32年12月30日に神奈川県多摩区柿生上麻生の長福院を白河妙閑寺末として移転合併し、多宝山長福院として今日に到る。						
参考文献	石川地方寺院めぐり(非売品)						
関連項目							
備 考							
写真及び位置図等		 全 景  位置図					

石川町資源調査調書

通し番号	38	整理番号	3	-	012	作成	平成19年2月
名 称	ソトウシユウ イオウザン トウヨウジ 曹洞宗 医王山 東光寺					項 目	寺院
管 理	住 所	石川町大字赤羽字新宿142					
	連 絡 先	石川町字北町142 繁松院 TEL 0247-26-1735					
	管理者及び所有者	現住職 富沢正弘（兼務）					
概 要	本山 大本山永平寺、大本山総持寺 本尊 薬師如来 開山 花顔文補大和尚 開山年 元和4年（西暦1618年） 開基 不明 宗祖 永平道元大和尚、瑩山紹瑾大和尚 当寺は今(平成12年)より382年前、清水寺七世(白河市田島)花顔文補大和尚により開山され、二十一代の和尚により法灯を護持して来た。 その間、明治26年の赤羽部落大火で、本堂・庫裡が焼失した。当時の檀家数65戸の半数以上が罹災した。この状況からみて再建が困難であったので、假本堂兼庫裡を建てたが実に粗末なものであった。昭和30年一部増築したが、戦後の物資不足などにより荘厳さに欠けているため、昭和57年に再建計画案を作り、昭和63年5月、本堂及び庫裡の竣工を見るに至った。						
参考文献	石川地方寺院めぐり(非売品)						
関連項目							
備 考							
写真及び位置図等							
 全 景		 位置図					

石川町資源調査調書

通し番号	39	整理番号	3	-	013	作成	平成19年2月
名 称	ソウトウシュウ リウコクザン ハンショウイン 曹洞宗 龍谷山 繁松院					項 目	寺院
管 理	住 所	石川町字北町142					
	連 絡 先	TEL 0247-26-1735					
	管理者及び所有者	現住職 富沢正弘（第三十七世）					
概 要	本山 大本山永平寺 福井県永平寺町、大本山總持寺 横浜市鶴見区 本尊 釈迦牟尼仏 開山年 永正九年（1512） 開基 石川尚光（二十二代）三芦城主石川家二十二代 宗祖 道元禅師（高祖承陽大師）、瑩山禅師（大祖常濟大師） 龍谷山繁松院は、三芦城主石川家二十二代駿河守尚光公が永正元年6月16日に死去した夫人（足利幕府八代将軍義政公の息女市姫、法名龍谷院殿繁松妙榮大姉）の冥福を祈るために、城下の東山根と称するこの地に道場の開基を発心して、石川町字高田高原山長泉寺第五世住職先翁法謹和尚にその開山を委嘱した。即ち先翁法謹和尚は公の嘱に応えるべく尽瘁すること九歳余、遂に永正9年（1512）10月20日龍谷山繁松院を開山した。 平成7年から同10年にかけて、本堂屋根銅板葺替、石垣改修歴代住職墓地改修を連続施工し、同5月に三十七世住職の晋山結制・諸工事落慶法要を挙行了。						
参考文献	石川地方寺院めぐり(非売品)						
関連項目							
備 考							
写真及び位置図等							
 全 景		 位置図					

石川町資源調査調書

通し番号	40	整理番号	3	-	014	作成	平成19年2月
名 称	リンザイシュウ バツカザン フモンジ 臨済宗 白華山 普門寺					項 目	寺院
管 理	住 所		石川町大字双里字双里192				
	連 絡 先		TEL 0247-26-1779				
	管理者及び所有者		現住職 清水元貞（二十二世）				
概 要	本山 大本山妙心寺 本尊 南無釈迦牟尼佛 開山 了山禪師大和尚 開山年 暦応三年（西暦1340年） 開基 石川大和守子孫中務小輔詮持公 当寺は暦応3年正月5日、石川詮持公が大檀越となり、巖父石川七郎義光公菩提と共に南北朝動乱の英霊追弔の為、北須川の濱り高田の地に草創梵刹、鎌倉建長寺より了山禪師大和尚を拝し、正観世音菩薩を安置し、佛道修法の道場として開山、後に詮持公、了山禪師の佛道修法拈却欽仰益々深き故に、後龜山天皇より国家鎮護の祈願所として勅額を賜る。永和三年（1377年）のことだった。 其後80余年寺誌欠載、寺門衰微なるも寛文2年（1662年）京都花園大本山妙心寺第九世圓照眞覚禪師大和尚法弟闍江袒寂禪師により現雙里へ移転、依ってこれより妙心寺派に属す。 享保元年（1716年）佛殿建立土木造営竣工全年3年12月也、翌春勅額を佛殿に掲げ祝寿の法筵を開く。 時遷り平成2年（1990年）境内土木工事、祇宗殿（歴代祖師、檀信徒、位牌堂）建立、平成九年（1997年）本堂改修復工事、景観を新たに6百60有余年の歴史と伝統遺風を守護し今日に至る。 これ佛天の加護と烈祖遺徳、大方尊宿の越格なる宗盟心、十方檀信徒の奇特なる信心とにより就るものである。						
参考文献	石川地方寺院めぐり(非売品)						
関連項目							
備 考							
写真及び位置図等							
 全 景  位置図							

石川町資源調査調書

通し番号	41	整理番号	3	-	015	作成	平成19年2月						
名 称	シンゴンシュウ 真言宗 チサンハ 智山派 ジコウザン 慈光山 ホウカイジ 寶海寺					項 目	寺院						
管 理	住 所	石川町大字沢井字館96											
	連 絡 先	TEL 0247-26-6804											
	管理者及び所有者	現住職 中島教忍（四十世）											
概 要	総本山 智積院 大本山 成田山 新勝寺、川崎大師 平間寺、高尾山 薬王院 本尊 大日大聖不動明王 脇佛 四天王尊 開山 宥順和尚 開山年 天正元年（1573） 宗祖 弘法大師（空海）、興教大師（覚鑁） 当寺は、石川有光公の三男、沢井三郎元光公の築城沢井館の山麓にあり、天正元年岩城郡田場坂田寶海寺の閑居寺として、宥順和尚により開山された。 本尊に不動尊、脇佛に持國天、増長天、廣目天、多聞天、の四天王尊を配置している。門柱の左側山麓に子安、子育て地藏尊があり、お産が軽くなるように腹帯といっしょに麻を縛る風習が有る。お祭りには子供の成長を祈りミカンを奉納し、御供符としていただく。また、沢田小学校の発祥の地で本堂を教室にしていた。 尚当寺は、無住が永く詳しい資料がないため調べることができないので、四天王尊信仰について簡単に記す。四天王尊像は仏教守護の武将として、聖徳太子が佛敵物部守屋を征伐するとき、ヌルデの木を以って四天王の像を彫り、頭髪の中に納め戦われた。後に戦勝感謝の意味で大阪四天王寺を建立したのにあやかり広まった。多聞天(毘沙門天)北方守護に在って、常に聞法に心を傾け遍く世間の衆生に與えられる。持國天、東方の鎮護で善を愛し、悪を罰する。増長天、南方の守護で万物能生の力を具え、自他の威力を増長させる。廣目天、西方の守護で悪人を罰したり、いろいろの辛苦を嘗めさせて堅固な道心を起こさせる。いずれもその姿は甲冑を身につけ武器をとり、足下に邪鬼を踏む。												
参考文献	石川地方寺院めぐり(非売品)												
関連項目													
備 考													
写真及び位置図等		 全 景  位置図											